

Ⅲ 調査結果の概要

1 健康項目の環境基準達成状況

平成 24 年度は調査地点 109 地点で延べ 1,897 項目を調査しました（内訳：河川 72 地点、湖沼 4 地点、海域 33 地点）。環境基準の達成状況を表 2 に示します。

基準を超過した地点・項目は、白川合流前（黒川）におけるふっ素のみでした。なお、白川合流前のふっ素は阿蘇火山による影響と考えられており、昨年度やその以前にも同様の超過が確認されています。

（表 2）健康項目環境基準達成状況

項 目	河川		湖沼		海域		全体		
	a:超過 地点数	b:測定 地点数	a:超過 地点数	b:測定 地点数	a:超過 地点数	b:測定 地点数	a:超過 地点数	b:測定 地点数	達成率(%) (b-a/b)
カドミウム	0(0)	25(26)	0(0)	4(4)	0(0)	9(9)	0(0)	38(39)	100
全シアン	0(0)	25(26)	0(0)	4(4)	0(0)	9(9)	0(0)	38(39)	100
鉛	0(0)	25(26)	0(0)	4(4)	0(0)	9(9)	0(0)	38(39)	100
六価クロム	0(0)	11(11)	0(0)	4(4)	0(0)	0(0)	0(0)	15(15)	100
砒素	0(0)	26(27)	0(0)	4(4)	0(0)	9(9)	0(0)	39(40)	100
総水銀	0(0)	25(26)	0(0)	4(4)	0(0)	13(12)	0(0)	42(42)	100
アルキル水銀	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	-
ポリ塩化ビフェニル	0(0)	21(22)	0(0)	4(4)	0(0)	0(0)	0(0)	25(26)	100
ジクロロメタン	0(0)	25(26)	0(0)	4(4)	0(0)	9(9)	0(0)	38(39)	100
四塩化炭素	0(0)	25(26)	0(0)	4(4)	0(0)	9(9)	0(0)	38(39)	100
1,2-ジクロロエタン	0(0)	25(26)	0(0)	4(4)	0(0)	9(9)	0(0)	38(39)	100
1,1-ジクロロエチレン	0(0)	25(26)	0(0)	4(4)	0(0)	9(9)	0(0)	38(39)	100
シス-1,2-ジクロロエチレン	0(0)	25(26)	0(0)	4(4)	0(0)	9(9)	0(0)	38(39)	100
1,1,1-トリクロロエタン	0(0)	25(26)	0(0)	4(4)	0(0)	9(9)	0(0)	38(39)	100
1,1,2-トリクロロエタン	0(0)	25(26)	0(0)	4(4)	0(0)	9(9)	0(0)	38(39)	100
トリクロロエチレン	0(0)	25(26)	0(0)	4(4)	0(0)	9(9)	0(0)	38(39)	100
テトラクロロエチレン	0(0)	25(26)	0(0)	4(4)	0(0)	9(9)	0(0)	38(39)	100
1,3-ジクロロプロパン	0(0)	25(26)	0(0)	4(4)	0(0)	9(9)	0(0)	38(39)	100
チラム	0(0)	25(26)	0(0)	4(4)	0(0)	9(9)	0(0)	38(39)	100
シマジン	0(0)	25(26)	0(0)	4(4)	0(0)	9(9)	0(0)	38(39)	100
チオベンカルブ	0(0)	25(26)	0(0)	4(4)	0(0)	9(9)	0(0)	38(39)	100
ベンゼン	0(0)	25(26)	0(0)	4(4)	0(0)	9(9)	0(0)	38(39)	100
セレン	0(0)	25(26)	0(0)	4(4)	0(0)	9(9)	0(0)	38(39)	100
硝酸性窒素・ 亜硝酸性窒素	0(0)	67(80)	0(0)	4(4)	0(0)	22(20)	0(0)	93 (104)	100
ふっ素	1(1)	23(25)	0(0)	4(4)	-(-)	-(-)	1(1)	27(29)	96
ほう素	0(0)	20(22)	0(0)	4(4)	-(-)	-(-)	0(0)	24(26)	100
1,4-ジキサン	0(0)	18(20)	0(0)	2(2)	0(0)	9(9)	0(0)	29(31)	100

（ ）内は前年度（H23）の値

（注）1. 健康項目のうち、全シアンは急性毒性を、他の 26 項目は慢性毒性を考慮してそれぞれ定められています。このため、全シアンについては、各測定地点における年間の測定値の最高値が環境基準を満足する場合に、また他の 26 項目については各測定地点における年間の測定値の平均値が環境基準を満足する場合に当該地点において環境基準が達成されたものと評価しています。

2 生活環境項目の環境基準達成状況

(1) BOD（河川）又はCOD（湖沼、海域）の環境基準達成状況

ア 河川

類型が指定されている 47 水域中 46 水域について環境基準を達成しており、達成率は 97.9%（前年度 95.7%）でした。（表 3-1, 3-4）

環境基準達成率は、昭和 53 年度には 38.5%でしたが、その後は渇水の影響で一時的に悪化した平成 6 年度を除けば着実に向上し続け、平成 14 年度からは 80%台後半～90%台で推移しています。（表 3-5）

（表 3-1）河川（BOD）における達成状況

類型	類型当てはめ水域数	達成水域数	達成率(%)	未達成水域
AA	7(7)	7(7)	100(100)	—
A	24(24)	24(24)	100(100)	—
B	9(9)	9(9)	100(100)	—
C	5(5)	5(4)	100(80)	—
D	2(2)	1(1)	50(50)	堀川下流
合計	47(47)	46(45)	97.9(95.7)	

（ ）内は前年度（H23）の値

イ 湖沼

類型が指定されている 3 水域中 3 水域について環境基準を達成しており、達成率は 100%（前年度 100%）でした。（表 3-2, 3-4）

環境基準達成率は類型あてはめが行われた平成 18 年度から概ね 100%を維持しています。

（表 3-2）湖沼（COD）における達成状況

類型	類型当てはめ水域数	達成水域数	達成率(%)	未達成水域
A	3(3)	3(3)	100(100)	—
合計	3(3)	3(3)	100(100)	

（ ）内は前年度（H23）の値

ウ 海域

類型が指定されている 19 水域中 14 水域について環境基準を達成しており、達成率は 73.7%（前年度 68.4%）でした。（表 3-3, 3-4）

環境基準達成率は、平成 9 年度までのアルカリ性法（天草西海では酸性法）においては 80%台の後半から 100%で推移してきました。しかし、測定法を全面的に酸性法に変更したこと等により、平成 10 年度以降は達成率が低下*し、平成 12 年度には大規模な赤潮等の影響等から過去最低の 52.6%まで低下しました。その後は 70～80%台で推移しています。（表 3-5）

*酸性法はアルカリ性法より高い COD の値が測定されるため。

（表 3-3）海域（COD）における達成状況

類型	類型当てはめ水域数	達成水域数	達成率(%)	未達成水域
A	4(4)	1(1)	25(25)	八代地先海域(丙)、有明海(15)、八代海(7)
B	11(11)	9(8)	81.8(72.7)	有明海(7)、有明海(8)
C	4(4)	4(4)	100(100)	—
合計	19(19)	14(13)	73.7(68.4)	

（ ）内は前年度（H23）の値

(表 3-4) 各水域別 BOD 又は COD 環境基準達成状況
ア 河川 (BOD)

水域区分	河川名	水域名称	範囲	水域類型	達成期間	環境基準点	年間75%値 (mg/L)	基準値 (mg/L)	達成状況				
有明北部	関川	関川	全域	A	イ	杉本橋	0.7	2	○(○)				
						助丸橋	1.0						
	浦川	浦川上流	中増永橋より上流	C	イ	中増永橋	1.9	5	○(○)				
						浦川下流	中増永橋より下流			D	ハ	一部橋	5.3
												長洲鉄橋下	5.1
	菜切川	菜切川	全域	B	イ	波華家橋	2.6	3	○(○)				
行末川	行末川	全域	B	イ	行末橋	2.6	3	○(○)					
境川	境川	全域	C	イ	清松橋	2.0	5	○(○)					
菊池川	菊池川	菊池川上流	木庭橋より上流	AA	イ	木庭橋	<0.5	1	○(○)				
						菊池川下流	木庭橋より下流			A	イ	中富	0.9
												山鹿	1.0
							白石	1.2	2	○(○)			
	迫間川	迫間川	全域	A	イ	高田橋	0.8	2			○(○)		
合志川	合志川	全域	A	イ	藤巻橋	1.6	2	○(×)					
					芦原	2.0							
坪井川	坪井川	坪井川上流	堀川合流点より上流	A	イ	堀川合流前	1.4	2	○(○)				
						坪井川中流	堀川合流点から城山上代橋まで			C	ハ	上代橋	4.2
												坪井川下流	城山上代橋より下流
	堀川	堀川上流	丹防橋より上流	A	イ	丹防橋	0.7	2	○(○)				
						堀川下流	丹防橋より下流			D	イ	坪井川合流前	10
	井芹川	井芹川上流	山王橋より上流	A	イ	山王橋	1.2	2	○(○)				
井芹川下流						山王橋より下流	B			イ	尾崎橋	1.6	
白川	白川	白川上流	鮎俣滝より上流	AA	イ	妙見橋	0.5	1	○(○)				
						白川中流	鮎俣滝から吉原橋まで			A	イ	吉原橋	1.0
												白川下流	吉原橋より下流
	黒川	黒川	全域	A	イ	白川合流前	1.0	2	○(○)				
緑川	緑川	緑川上流	緑川ダムより上流	AA	イ	津留橋	<0.5	1	○(○)				
						緑川中流	緑川ダムから上杉堰まで			A	イ	上杉堰	1.6
												緑川下流	上杉堰より下流
	御船川	御船川	全域	A	ロ	五庵橋	0.7	2	○(○)				
	加勢川	加勢川	全域	A	ロ	大六橋	1.4	2	○(○)				
	天明新川	天明新川	全域	B	ロ	六双橋	1.7	3	○(○)				
	浜戸川	浜戸川	全域	B	ロ	大曲	1.8	3	○(○)				
球磨川	球磨川	球磨川上流	市房ダムより上流	AA	イ	市房ダム	<0.5	1	○(○)				
						球磨川中流	市房ダムから坂本橋まで			A	イ	西瀬橋	0.5
		球磨川下流(南川を含む)	坂本橋より下流	A	イ			坂本橋	0.6				
						横石	0.7	2	○(○)				
金剛橋	0.7												

() 内は前年度 (H23) の達成状況

水域区分	河川名	水域名称	範囲	水域 類型	達成 期間	環境基準点	年間 75%値 (mg/L)	基準値 (mg/L)	達成 状況
球磨川	前川	前川	全域	A	イ	前川橋	0.8	2	○(○)
	川辺川	川辺川上流	藤田より上流	AA	イ	藤田	<0.5	1	○(○)
		川辺川下流	藤田より下流	A	イ	川辺大橋 (旧永江橋)	<0.5	2	○(○)
氷川等	氷川	氷川	全域	A	イ	氷川橋	0.8	2	○(○)
	砂川	砂川	全域	B	イ	上砂川橋	0.7	3	○(○)
	大野川	大野川	全域	C	イ	新寄田橋	2.2	5	○(○)
	大鞆川	大鞆川	全域	B	ロ	第二大鞆橋	1.5	3	○(○)
筑後川 その他	筑後川	筑後川(1)	松原ダムより上流	AA	イ	杖立	0.6	1	○(○)
	佐敷川	佐敷川	全域	A	イ	柗橋	<0.5	2	○(○)
	湯の浦川	湯の浦川	全域	A	イ	広瀬橋	<0.5	2	○(○)
	水俣川	水俣川上流	桜野橋より上流	AA	イ	桜野橋	<0.5	1	○(○)
		水俣川下流	桜野橋より下流	A	イ	鶴田橋	<0.5	2	○(○)
	教良木川	教良木川	全域	A	イ	倉江橋	0.6	2	○(○)
	亀川	亀川	全域	A	イ	草積橋	0.9	2	○(○)
	広瀬川	広瀬川	全域	A	イ	法泉寺橋	0.7	2	○(○)
一町田川	一町田川	全域	A	イ	一町田橋	0.7	2	○(○)	

() 内は前年度 (H23) の達成状況

イ 湖沼 (COD)

水域名	水域 類型	達成 期間	環境基準点	年間75%値 (mg/L)	基準値 (mg/L)	達成状況
竜門ダム貯水池	A	イ	竜門ダム貯水池主点	1.6	3	○(○)
緑川ダム貯水池	A	イ	緑川ダム貯水池	1.9	3	○(○)
市房ダム貯水池	A	イ	市房ダム貯水池	1.7	3	○(○)

() 内は前年度 (H23) の達成状況

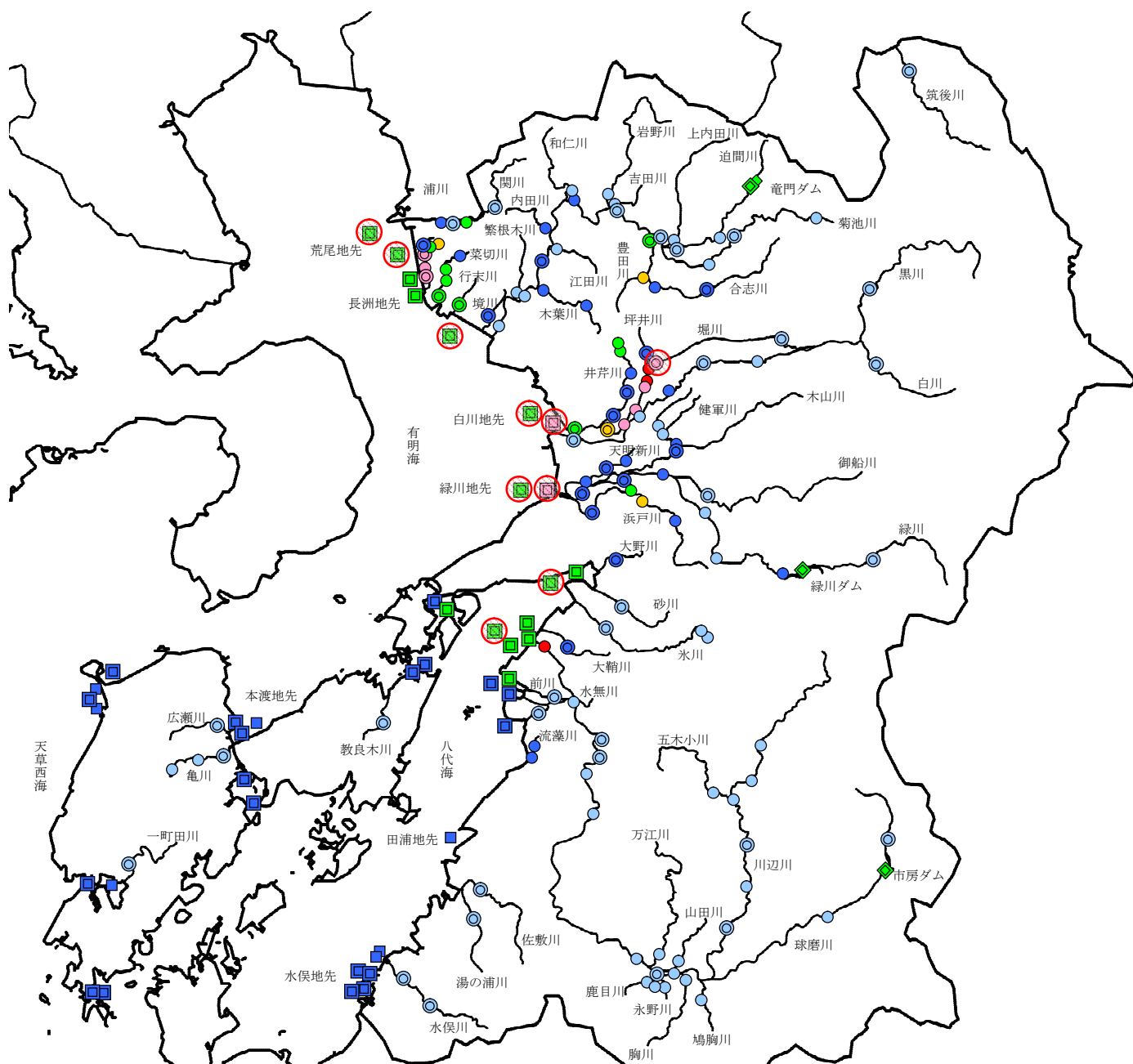
ウ 海域 (COD)

水域区分	水域名	水域類型	達成期間	基準点	測定地点名	年間75%値 (mg/L)	基準値 (mg/L)	達成状況	
有明海	有明海(5)	長洲地先	C	イ	St-3	長州港内	2.5	8	○(○)
	有明海(6)		B	イ	St-4	長洲地先	2.3	3	○(○)
	有明海(7)	白川河口部	B	イ	St-6	坪井川河口	<u>3.4</u>	3	×(×)
	有明海(8)	緑川河口部	B	イ	St-8	緑川河口	<u>3.5</u>	3	×(×)
	有明海(9)	本渡港地先	C	イ	St-11	本渡港内	1.9	8	○(○)
	有明海(10)		B	イ	St-10	本渡地先	1.8	3	○(○)
	有明海(15)	中央部	A	イ	St-1	荒尾地先	<u>2.1</u>	2	×(×)
					St-2	荒尾地先	<u>2.3</u>		
					St-5	長洲地先	<u>2.2</u>		
					St-7	白川地先	<u>2.5</u>		
				St-9	緑川地先	<u>2.6</u>			
				St-3	大鞆川地先	2.6			
				St-4	水無川地先	2.1			
				St-5	前川河口	2.0			
八代地先	八代地先海域(乙) …八代市地先	B	口	St-8	球磨川河口	2.0	3	○(○)	
				St-6	水無川地先	<u>2.1</u>			
				St-7	前川地先	1.9			
				St-3	大鞆川地先	2.6			
	八代地先海域(丙) …湾奥部	A	口	St-6	水無川地先	<u>2.1</u>	2	×(×)	
				St-7	前川地先	1.9			
八代海	八代海(1)	三角港	B	イ	St-1	三角港地先	2.1	3	○(○)
	八代海(2)	合津港	B	イ	St-3	合津港内	1.9	3	○(○)
	八代海(3)	本渡瀬戸	B	イ	St-5	大門港地先	1.8	3	○(○)
	八代海(4)	牛深港	B	イ	St-7	牛深港内	1.6	3	○(○)
	八代海(5)	不知火地先	B	イ	St-9	松合港地先	3.0	3	○(×)
	八代海(6)	梅戸港	B	イ	St-11	梅戸港内	1.8	3	○(○)
	八代海(7)	中央部	A	イ	St-2	三角港地先	2.0	2	×(×)
					St-4	合津港地先	2.0		
					St-6	大門港地先	1.7		
					St-8	牛深港地先	1.5		
					St-10	松合港地先	<u>2.9</u>		
					St-12	梅戸港地先	1.6		
					St-15	水俣港内	1.7		
天草西海	天草西海	A	イ	St-1	富岡湾	1.4	2	○(○)	
				St-2	荅北地先	1.4			
				St-3	羊角湾中部	1.7			

() 内は前年度 (H23) の達成状況

※BOD 又は COD の環境基準に対する適合性については、75%値を用いて判断しています。これは、一年間で得られたすべての日平均値を対象として、その測定地点が属する水域類型に対応する環境基準値を満たしている測定値の割合が 75%以上である場合に、環境基準に適合していると評価する方法です。

平成 24 年度公共用水域の水質調査結果概要（河川：BOD、湖沼・海域：COD）



(注) この図は地点ごとの類型を示したのではなく、調査結果をもとに水質の状況に応じて地点を色分けし示したものです。（各地点の類型については表 1-1～表 1-3 又は図 1-1～図 1-3 を参照）

(河川)

基準点/補助点	BOD(75%値)
◎ ○	1mg/L以下 (河川AA類型相当)
● ○	2mg/L以下 (河川A類型相当)
● ○	3mg/L以下 (河川B類型相当)
● ○	5mg/L以下 (河川C類型相当)
● ○	8mg/L以下 (河川D類型相当)
● ○	8mg/Lを上回る (河川E類型相当)

(湖沼)

基準点/補助点	COD(75%値)
◇ ◇	1mg/L以下 (湖沼AA類型相当)
◇ ◇	3mg/L以下 (湖沼A類型相当)
◇ ◇	5mg/L以下 (湖沼B類型相当)
◇ ◇	8mg/L以下 (湖沼C類型相当)

⊗ ... 環境基準超過地点

(海域)

基準点/補助点	COD(75%値)
■ ■	2mg/L以下 (海域A類型相当)
■ ■	3mg/L以下 (海域B類型相当)
■ ■	8mg/L以下 (海域C類型相当)

(表 3-5) 環境基準達成率 (BOD 又は COD) の推移について

水域	年度											
	昭和	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63
河川 (県内)		38.5	51.3	51.3	48.7	43.6	51.3	51.3	66.7	66.7	64.1	64.1
〃 (全国)		59.5	65.0	67.2	63.3	65.3	65.9	63.4	67.7	68.6	68.3	73.3
海域 (県内)		100	88.9	94.4	94.4	94.4	94.4	100	94.7	100	89.5	89.5
〃 (全国)		75.3	78.2	79.8	81.6	81.3	79.8	81.3	80.0	81.2	82.6	82.7

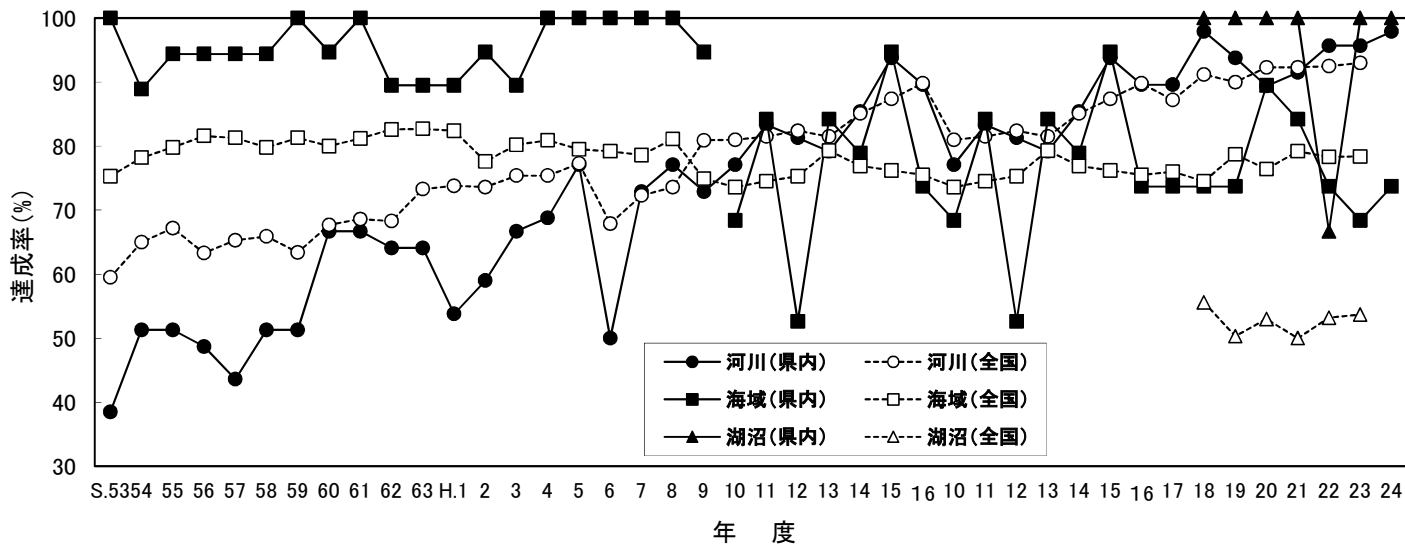
水域	年度											
	平成	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
河川 (県内)		53.8	59.0	66.7	68.8	77.1	50.0	72.9	77.1	72.9	77.1	83.3
〃 (全国)		73.8	73.6	75.4	75.4	77.3	67.9	72.3	73.6	80.9	81.0	81.5
海域 (県内)		89.5	94.7	89.5	100	100	100	100	100	94.7	68.4	84.2
〃 (全国)		82.4	77.6	80.2	80.9	79.5	79.2	78.6	81.1	74.9	73.6	74.5

水域	年度													
		12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24
河川 (県内)		81.3	79.2	85.4	93.8	89.6	89.6	97.9	93.8	89.4	91.5	95.7	95.7	95.7
〃 (全国)		82.4	81.5	85.1	87.4	89.8	87.2	91.2	90.0	92.3	92.3	92.5	93.0	-
湖沼 (県内)		-	-	-	-	-	-	100	100	100	100	66.7	100	100
〃 (全国)		-	-	-	-	-	-	55.6	50.3	53.0	50.0	53.2	53.7	-
海域 (県内)		52.6	84.2	78.9	94.7	73.7	73.7	73.7	73.7	89.5	84.2	73.7	68.4	73.7
〃 (全国)		75.3	79.3	76.9	76.2	75.5	76	74.5	78.7	76.4	79.2	78.3	78.4	-

(備考) 1. 河川は BOD、湖沼及び海域は COD

2. 達成率 (%) = (達成水域数 / あてはめ水域数) × 100

環境基準(BOD又はCOD)達成率の推移



※海域については、熊本県はアルカリ性法による COD の測定データを用いて環境基準の類型指定を行っていますが、平成 10 年度から全域酸性法により測定しており、酸性法はアルカリ性法より高い COD の値が測定されることから、平成 10 年度以降環境基準達成率が低下しています。

(参考) 河川の BOD 上位及び下位水域 (ベスト、ワースト)

【ベスト5】

(1) 平成 24 年度順位

順位	あてはめ水域名	類型	環境基準点	市町村名	BOD (mg/L)				平成 23年度 順位
					年間 平均値	75%値	最小値	最大値	
1	球磨川上流	AA	市房ダム	水上村	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	1
〃	川辺川上流	AA	藤田	相良村	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	1
〃	菊池川上流	AA	木庭橋	菊池市	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	1
〃	水俣川上流	AA	桜野橋	水俣市	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	1
〃	川辺川下流	A	川辺大橋	相良村	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	1

(2) 平成 23 年度順位

順位	あてはめ水域名	類型	環境基準点	市町村名	BOD (mg/L)				平成 22年度 順位
					年間 平均値	75%値	最小値	最大値	
1	球磨川上流	AA	市房ダム	水上村	0.5	<0.5	<0.5	0.6	1
〃	緑川上流	AA	津留橋	山都町	0.5	<0.5	<0.5	0.6	1
〃	水俣川上流	AA	桜野橋	水俣市	0.5	<0.5	<0.5	0.5	6
〃	菊池川上流	AA	木庭橋	菊池市	0.5	0.5	<0.5	0.8	1
〃	川辺川上流	AA	藤田	相良村	0.5	0.5	<0.5	0.7	1
〃	白川上流	AA	妙見橋	南阿蘇村	0.5	0.5	<0.5	0.7	6

【ワースト5】

(1) 平成 24 年度順位

順位	あてはめ水域名	類型	環境基準点	市町村名	BOD (mg/L)				平成 23年度 順位
					年間 平均値	75%値	最小値	最大値	
1	堀川下流	D	坪井川合流前	熊本市	6.5	10	2.2	15	3
2	浦川下流	D	一部橋 長洲鉄橋下	荒尾市 長洲町	4.1	5.3	1.4	9.7	1
3	坪井川中流	C	上代橋	熊本市	3.4	4.2	1.4	5.0	2
4	行末川	B	行末橋	荒尾市	2.6	2.6	1.3	6.0	4
5	坪井川下流	C	千金甲橋	熊本市	1.9	2.3	0.8	3.9	6

(2) 平成 23 年度順位

順位	あてはめ水域名	類型	環境基準点	市町村名	BOD (mg/L)				平成 22年度 順位
					年間 平均値	75%値	最小値	最大値	
1	浦川下流	D	一部橋 長洲鉄橋下	荒尾市 長洲町	4.8	8.1	1.4	10	1
2	坪井川中流	C	上代橋	熊本市	3.6	4.2	1.5	10	2
3	堀川下流	D	坪井川合流前	熊本市	3.2	4.2	1.4	6.1	3
4	行末川	B	行末橋	荒尾市	2.2	2.3	1.0	5.9	8
5	菜切川	B	波華家橋	荒尾市	2.1	2.2	<0.5	5.3	4

(備考) 1. 順位決定については年間平均値に基づき行った。

2. 河川の BOD 高濃度水域である浦川下流について、年間平均値は 2 地点の平均値を、75%値及び最大値は 2 地点のうち高い値を、最小値は 2 地点のうち低い値をそれぞれ用いた。

(2) 全窒素及び全燐 (湖沼・海域)

ア 湖沼 (ダム)

全窒素はあてはめ水域 1 水域で暫定目標を達成しました。(環境基準達成率: 100%)。また、全燐はあてはめ水域 3 水域中とも環境基準を達成しました(環境基準達成率: 100%)。(表 4-1, 4-2)

なお、全窒素については類型当てはめが行われた平成 18 年度から平成 21 年度までは未達成でしたが、平成 22 年度以降は暫定目標を達成しています。一方、全窒素については平成 18 年度以降 3 水域とも達成という状況が続いています。

※全窒素の基準値は、全窒素が湖沼植物プランクトンの増殖の要因となる湖沼(全窒素/全燐比が 20 以下であり、かつ全燐濃度が 0.02mg/L 以上である湖沼)を対象として適用することとなっていることから、竜門ダム、市房ダムにおいては適用除外となっています。また、全窒素の基準が適用される緑川ダムにおいては、当面の間、暫定目標を設定し、段階的に湖沼Ⅳ類型を達成することとしています。

(表 4-1) 湖沼全窒素・全燐環境基準達成状況

項目	類型あてはめ水域数	達成水域数	達成率 (%)	未達成水域
全窒素	1 (1)	1 (1)	100 (100)	—
全燐	3 (3)	3 (3)	100 (100)	—

() 内は前年度 (H23) の値

(表 4-2) 湖沼 各地点別全窒素・全燐環境基準達成状況

水域名	項目	類型	環境基準点	年間平均値 (mg/L)	基準値 (mg/L)	達成状況	
竜門ダム 貯水池	全窒素	当分の間、適用しない	竜門ダム 貯水池主点	0.37	—	—	○(○)
	全燐	Ⅲ		0.008	0.03	○(○)	
緑川ダム 貯水池	全窒素	暫定目標値0.61mg/L	緑川ダム 貯水池	0.60	0.61*	○(○)	○(○)
	全燐	Ⅳ		0.025	0.05	○(○)	
市房ダム 貯水池	全窒素	当分の間、適用しない	市房ダム 貯水池	0.22	—	—	○(○)
	全燐	Ⅲ		0.014	0.03	○(○)	

() 内は前年度 (H23) の状況

※平成 27 年度までに達成することとされた暫定目標値

イ 海域

類型指定は、八代海及び羊角湾で平成 11 年 5 月に、有明海で平成 12 年 3 月にそれぞれ行われています。

全窒素及び全燐のあてはめ水域 7 水域中 6 水域で環境基準を達成しており、環境基準達成率は 85.7%でした。(表 5-1, 5-2) 平成 12 年度以降の結果については、平成 12 年度が 28.6%と最も低く、平成 13~17 年度は概ね 100%で推移し、平成 18 年以降は 57.1%~85.7%で推移しています。(表 5-3)

※海域の全窒素及び全燐については、あてはめ水域内の環境基準点(同一水域内の他県に属する環境基準点を含む)の年間平均値の全地点の平均値が環境基準を満足する場合に、あてはめ水域の環境基準が達成されたものと評価することとされています(平成 7 年 2 月 28 日環水管第 33 号通知)。なお、全窒素及び全燐ともに環境基準を満足している場合に達成水域としました。

(表 5-1) 海域全窒素・全燐環境基準達成状況

項目	類型あてはめ水域数	達成水域数	達成率 (%)	未達成水域
全窒素	7 (7)	7 (7)	—	—
全燐	7 (7)	6 (5)	—	有明海(二)
全窒素及び全燐	7 (7)	6 (5)	85.7 (71.4)	有明海(二)

() 内は前年度 (H23) の値

(表 5-2) 海域 各地点別全窒素・全燐環境基準達成状況

海域区分	水域名	水域類型	達成期間	基準点	測定地点名	平均値 (mg/L)				基準値 (mg/L)		達成状況	
						全窒素		全燐		全窒素	全燐		
						年間平均	水域内全地点の平均	年間平均	水域内全地点の平均				
有明海	有明海(口)	Ⅲ	イ	St-2	荒尾地先	0.28	0.28	0.046	0.036	0.6	0.05	○(○)	
				St-4	長洲地先	0.29		0.035					
				St-5	長洲地先	0.25		0.032					
				K-17	菊池川地先	0.26		0.031					
				K-15	横島地先	0.22		0.027					
				St-7	白川地先	0.38		0.042					
				K-12	熊本地先	0.21		0.027					
				St-9	緑川地先	0.35		0.044					
	有明海(二)	Ⅱ	イ	St-1	荒尾地先	0.27	0.29	0.037	0.034	0.3	0.03	×(×)	
				K-20	岱明沖	0.24		0.028					
				K-11	熊本沖	0.19		0.023					
				L7	(福岡県沖)	0.29		0.034					
				S-5	(佐賀県沖)	0.34		0.046					
				B-6	(長崎県沖)	0.33		0.037					
				N-4	(長崎県沖)	0.37		0.032					
	有明海(ホ)	Ⅱ	イ	K-6	大矢野地先	0.17	0.23	0.020	0.021	0.3	0.03	○(○)	
				St-13	本渡地先	0.17		0.021					
				瀬詰崎沖	(長崎県沖)	0.24		0.016					
				N-10	(長崎県沖)	0.35		0.026					
	八代海	八代海北部	Ⅲ	イ	St-10	松合港地先	0.30	0.27	0.059	0.048	0.6	0.05	○(×)
					St-17	水無川沖	0.23		0.036				
		八代海中部	Ⅱ	イ	八代地先	前川地先	0.19	0.16	0.027	0.023	0.3	0.03	○(○)
					St-7		田浦沖		0.13				
八代海南部		Ⅰ	イ	St-19	津奈木沖	0.13	0.15	0.017	0.017	0.2	0.02	○(○)	
				St-20	栖本湾沖	0.15		0.017					
	St-21			女岳沖	0.16	0.017							
羊角湾	羊角湾	Ⅱ	イ	St-3	羊角湾中部	0.13	0.16	0.014	0.016	0.3	0.03	○(○)	
				St-4	羊角湾奥部	0.18		0.017					

() 内は前年度 (H23) の達成状況。

※福岡県沖、佐賀県沖及び長崎県沖のデータは、速報値を記載。

(表 5-3) 海域別 (全窒素及び全磷) 達成率の推移

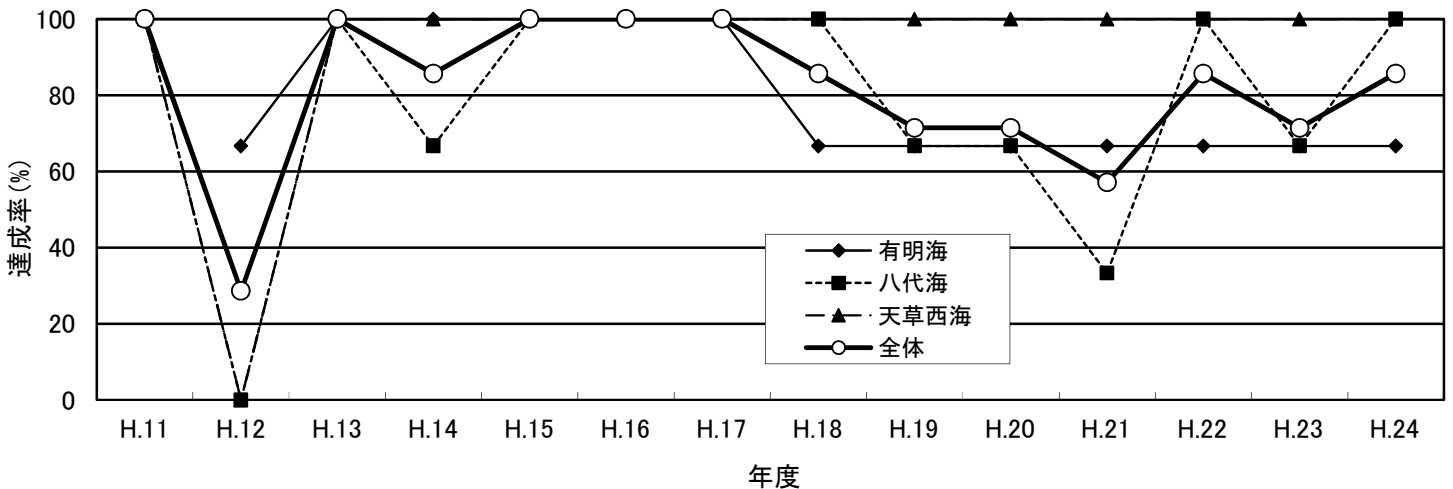
全窒素	年度	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24
	海域														
有明海	—	66.7	100	100	100	100	100	100	66.7	100	100	100	100	100	100
	—	(2/3)	(3/3)	(3/3)	(3/3)	(3/3)	(3/3)	(3/3)	(2/3)	(3/3)	(3/3)	(3/3)	(3/3)	(3/3)	(3/3)
八代海	100	33.3	100	66.7	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
	(3/3)	(1/3)	(3/3)	(2/3)	(3/3)	(3/3)	(3/3)	(3/3)	(3/3)	(3/3)	(3/3)	(3/3)	(3/3)	(3/3)	(3/3)
天草西海	100	0.0	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
	(1/1)	(0/1)	(1/1)	(1/1)	(1/1)	(1/1)	(1/1)	(1/1)	(1/1)	(1/1)	(1/1)	(1/1)	(1/1)	(1/1)	(1/1)
全体	100	42.9	100	85.7	100	100	100	100	85.7	100	100	100	100	100	100
	(4/4)	(3/7)	(7/7)	(6/7)	(7/7)	(7/7)	(7/7)	(7/7)	(6/7)	(7/7)	(7/7)	(7/7)	(7/7)	(7/7)	(7/7)

全磷	年度	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24
	海域														
有明海	—	100	100	100	100	100	100	100	66.7	66.7	66.7	66.7	66.7	66.7	66.7
	—	(3/3)	(3/3)	(3/3)	(3/3)	(3/3)	(3/3)	(3/3)	(2/3)	(2/3)	(2/3)	(2/3)	(2/3)	(2/3)	(2/3)
八代海	100	66.7	100	100	100	100	100	100	100	66.7	66.7	33.3	100	66.7	100
	(3/3)	(2/3)	(3/3)	(3/3)	(3/3)	(3/3)	(3/3)	(3/3)	(3/3)	(2/3)	(2/3)	(1/3)	(3/3)	(2/3)	(3/3)
天草西海	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
	(1/1)	(1/1)	(1/1)	(1/1)	(1/1)	(1/1)	(1/1)	(1/1)	(1/1)	(1/1)	(1/1)	(1/1)	(1/1)	(1/1)	(1/1)
全体	100	85.7	100	100	100	100	100	100	85.7	71.4	71.4	57.1	85.7	71.4	85.7
	(4/4)	(6/7)	(7/7)	(7/7)	(7/7)	(7/7)	(7/7)	(7/7)	(6/7)	(5/7)	(5/7)	(4/7)	(6/7)	(5/7)	(6/7)

全窒素及び全磷	年度	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24
	海域														
有明海	—	66.7	100	100	100	100	100	100	66.7	66.7	66.7	66.7	66.7	66.7	66.7
	—	(2/3)	(3/3)	(3/3)	(3/3)	(3/3)	(3/3)	(3/3)	(2/3)	(2/3)	(2/3)	(2/3)	(2/3)	(2/3)	(2/3)
八代海	100	0.0	100	66.7	100	100	100	100	100	66.7	66.7	33.3	100	66.7	100
	(3/3)	(0/3)	(3/3)	(2/3)	(3/3)	(3/3)	(3/3)	(3/3)	(3/3)	(2/3)	(2/3)	(1/3)	(3/3)	(2/3)	(3/3)
天草西海	100	0.0	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
	(1/1)	(0/1)	(1/1)	(1/1)	(1/1)	(1/1)	(1/1)	(1/1)	(1/1)	(1/1)	(1/1)	(1/1)	(1/1)	(1/1)	(1/1)
全体	100	28.6	100	85.7	100	100	100	100	85.7	71.4	71.4	57.1	85.7	71.4	85.7
	(4/4)	(2/7)	(7/7)	(6/7)	(7/7)	(7/7)	(7/7)	(7/7)	(6/7)	(5/7)	(5/7)	(4/7)	(6/7)	(5/7)	(6/7)

※上段：達成率 (%) 下段：(環境基準達成水域数/あてはめ水域数)

海域別環境基準達成率(全窒素及び全磷)の推移



3 要監視項目の調査結果

ア 人の健康の保護に係る要監視項目

平成 24 年度は河川 11 地点で、延べ 199 項目について調査を行ったところ、すべての地点において指針値を下回りました。（表 6-1）

（表 6-1）人の健康の保護に係る要監視項目の指針値達成状況

項目	超過地点数 (a)	測定地点数 (b)	達成率 (%) (b-a/b)	項目	超過地点数 (a)	測定地点数 (b)	達成率 (%) (b-a/b)
クロロホルム	0	4	100	フェノブカルブ (BPMC)	0	11	100
トランス-1, 2-ジクロロエチレン	0	4	100	イプロベンホス (IBP)	0	11	100
1, 2-ジクロロプロパン	0	4	100	クロロニトロフェン (CNP)	0	9	100
p-ジクロロベンゼン	0	4	100	トルエン	0	4	100
イソキサチオン	0	11	100	キシレン	0	4	100
ダイアジノン	0	11	100	フタル酸ジエチルヘキシル	0	6	100
フェントロチオン (MEP)	0	11	100	ニッケル	0	6	100
イソプロチオラン	0	11	100	モリブデン	0	6	100
オキシ銅 (有機銅)	0	11	100	アンチモン	0	6	100
クロタロニル (TPN)	0	11	100	塩化ビニルモノマー	0	9	100
プロピサミト	0	11	100	エビクロロヒトリン	0	4	100
EPN	0	11	100	全マンガン	0	4	100
ジクロホス (DDVP)	0	11	100	ウラン	0	4	100

イ 水生生物の保全に係る要監視項目

平成 24 年度は河川 9 地点で、延べ 17 項目について調査を行ったところ、すべての地点において、検出されませんでした。県内の水域については、水生生物の保全に係る環境基準の類型指定を行っていないため、指針値との比較はしていません。（表 6-2）

（表 6-2）水生生物の保全に係る要監視項目の測定状況

項目	検出地点数	測定地点数
クロロホルム	0	4
フェノール	0	4
ホルムアルデヒド	0	9

4 特殊項目及びその他項目の調査結果

河川 103 地点、湖沼（ダム）4 地点、海域 52 地点で延べ 4, 720 項目について調査を行いました。対策を必要とするような結果は認められませんでした（詳細はIV水質調査結果表 P60～73 を参照）。

5 底質調査結果

河川 6 地点、海域 19 地点で延べ 135 項目について調査を行いました。対策を必要とするような結果は認められませんでした（詳細はV底質調査結果表 P74 を参照）。